

東京都教育委員会基本方針

- 1 「人間尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成
- 2 「豊かな個性」と「想像力」の伸長
- 3 「総合的な教育力」と「生涯学習」の充実
- 4 「都民の教育参加」と「学校経営の改革」の推進

中野区立学校教育の指導目標の重点

- 1 小中連携教育の充実を図るため、各校において発達段階や、学びの連続性をふまえた、意図的・計画的な教育課程を工夫し、具体的な教育活動を展開する。
- 2 学習意欲を喚起するために授業改善を一層推進するとともに、一人ひとりに応じた補充的な学習の実施や、家庭と連携した学習習慣の定着を図り、学力の向上に努める。
- 3 望ましい生活習慣の確立と体力向上に向けた取組を充実させ、すこやかな体の育成に努める。
- 4 発達の段階に応じて人権教育及び道徳教育を充実させ、豊かな心の育成に努める。

各教科の指導の重点

- ・各教科とも工夫のある授業の実施により主体的に学ぶ力と基礎的・基本的な内容を確実に習得させる。
- ・言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成する。
- ・数学・理科・英語において習熟度別少人数授業を展開し、一人ひとりの生徒への的確な指導を実践する。
- ・ICT機器等を活用して、さまざまな情報を収集、選択、活用できる能力を育てる。
- ・校内研修を通して、学習意欲を向上させる指導法の工夫についての研修を深める。

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・全体テーマ「共に生きる」
1年「地域を知る」2年「社会を学ぶ」
3年「未来を考える」
- ・社会を知り、自分のことを振り返り、社会と関わる力を身につかせ、「生きる力」の育成を図る。
- ・校外学習を校外の体験的調査、学習の場として位置づけ、体験的に課題解決を図る学習を展開する。

進路指導における指導の重点

- ・キャリア教育全体計画に基づき、発達段階に即し、自己理解を援助し、生徒一人ひとりの個性・能力に応じた指導の充実を図る。そして地域と連携した体験的な活動を通して、主体的に進路選択できる能力と態度を育てる。
- ・自己の進路を自ら決定していく力を身に付けさせるために、第1学年で職業調べ、第2学年では3日間の職場体験と上級学校訪問、第3学年では上級学校についての講演会等を実施する。

学力向上に向けた全体計画

中野区立第七中学校

学校の教育目標

- すすんで学ぶ人になろう
- 心ゆたかな人になろう
- 社会につくす人になろう

学校、地域の実態

規律正しく伝統のある校風 住宅地域で安定した地域環境
地域・保護者の期待や願い
 知徳体のバランスのとれた生徒の育成

学校経営方針

- 1 「確かな学力」を身につけさせる学校を目指す
- 2 体験を通し、豊かな心を育てる学校を目指す
- 3 自己有用感を育み、母校への誇りをもたせる学校を目指す
- 4 開かれた学校を目指す

道徳教育の指導の重点

- ・あらゆる差別やいじめを無くし、人権を尊重する態度を育てるとともに、自他の生命を尊重する心情と判断力を育てる。
- ・3年間を見通した全体計画に基づき、特別活動並びに各教科、総合的な学習の時間との関連を図りながら教材・指導法の工夫により道徳の時間を充実させるとともに道徳的実践力の向上を図る。
- ・地域行事やボランティア活動への参加など社会的な体験を通して、規範意識とボランティア精神を育成する。
- ・本校特別支援学級との交流を通して人とのかわり方を学び、よりよい人間関係を築く姿勢を養う。

本校のとらえる「確かな学力」

- ① 基礎基本の確実な定着
- ② 家庭学習の定着
- ③ 読書活動の充実
- ④ 「総合的な学習の時間」の充実
- ⑤ 学習教室等の充実

特別活動の指導の重点

- ・生徒一人ひとりが集団の一員としての責任を果たし、よりよい集団を築こうとする自主的、実践的な態度を養う。
- ・生徒一人ひとりがコミュニケーションを図りながらお互いを理解し合い、よりよい人間関係を築こうとする態度を養う。
- ・特別支援学級との交流をはじめとする人とのかわり合いを通してコミュニケーション能力を育成する。
- ・安全教育を充実させ、自他の生命を尊重する態度と実践力さらに社会貢献力を培う。
- ・ボランティア活動を通して、地域や社会に貢献する心や態度を身に付けさせる。

生活指導における指導の重点

- ・時間、身なり、言葉遣い、あいさつの4点を重点的に指導して基本的な生活習慣を確立させる。
- ・生徒会活動や学校行事を通して、自己肯定感を高めさせる。また小学校との交流を推進することなどによりコミュニケーション能力を伸長するとともに自他を尊重し合う心情と態度を養う。
- ・教職員の日々の情報交換やふれ合い月間を活用し、生徒の実態把握に努めるとともに、いじめ防止委員会や生活指導部会、校内委員会で情報の共有を図り、関係機関とも連携を図りながら生徒への適切な対応を行い、予防と早期発見、早期解消を実現する。
- ・保護者、地域、関係機関と連携しながら、非行防止や犯罪から身を守る態度を養う。
- ・関係機関と連携しながら、安全教育や防災教育を推進し、生徒自らが安全を確保する実践的な態度を養う。
- ・SNS 学校ルールを策定し、生徒の発達段階に応じた指導を推進する。

本校の授業改善に向けた視点

◇教育課程編成上の工夫	◇指導内容・方法の工夫	◇評価・評定の工夫	◇校内研修の工夫	◇家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通しての人権尊重の理念の理解と思いやりの心の教育や規範意識の育成 ・小中連携教育を踏まえた指導計画の作成 ・朝読書の実施(通年) ・長期休業中の学習教室の実施 ・年間を通しての放課後学習教室の実施 ・家庭学習の確実な定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実 ・習熟度別少人数指導の工夫、学習指導支援員等の活用、放課後学習指導の実施 ・ICT機器の活用 ・オリンピック・パラリンピック教育を通して国際理解教育の推進と体力向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善の推進 ・指導と評価の一体化 ・評価計画の作成 ・定期考査後「学習の振り返り」の実施 ・教育計画説明会における教育課程及び評価、評定の説明 	<ul style="list-style-type: none"> 「魅力ある学校づくりを目指して～授業力の向上と生徒理解～」を研究主題とした指導法の工夫や授業公開などを通じた、授業力向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第二土曜公開や道徳授業地区公開講座等の学校公開の実施 ・地域及び保護者対象の安全教育、健康教育などの講演会の実施 ・年2回実施の面談における相談機能の充実

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- ・朝読書を中心に、読書指導をすすめ、本に親しませる機会を多くする。
- ・百人一首や教科書に出てくる古典作品を暗記させ、古典を身近なものにする。
- ・授業中に自分の考えを発表する機会を多くし、話す力と聞く力を身につけさせる。
- ・書く力をつけるために、作文に取り組ませる。
- ・書き初めコンクールでは、全員の作品を展示し、お互いの作品を鑑賞する。
- ・「スピーチ」を授業に取り入れ、話す態度と聞く態度を実につけさせる。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学力調査では、「書く能力」の観点特に中野区の達成率を下回っている。 ・授業に臨む姿勢は全体的に意欲的だが、学習習慣の定着に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物をする生徒が決まっているので、綿密な指導が必要である。 ・「漢字の学習」や「すらすら基本文法」「国語のワーク」を使用して予習・復習に取り組めるようにしているが、定着できない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字の学習」や「すらすら基本文法」を活用して、基礎学力の定着を図る。 ・ワークシートや国語のワークを利用して書く力を身に付けさせる。 ・3分間スピーチや聞き取りテスト等を通じて、「話す・聞く力」を身につけさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学力調査では、全ての観点が、中野区の目標値を上回っているか同程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物をする生徒が決まっているので、綿密な指導が必要である。 ・「漢字の学習」や「すらすら基本文法」「国語のワーク」を使用して、予習・復習に取り組めるようにしているが、定着できない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字の学習」や「すらすら基本文法」を活用して、基礎学力の定着を図る。 ・ワークシートや国語のワークを利用して書く力を身に付けさせる。 ・3分間スピーチや聞き取りテスト等を通じて、「話す・聞く力」を身につけさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学力調査では、全ての観点が、中野区の目標値を上回っている。また、平成28年度を全ての観点が上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国語のワーク」や「問題集」を使用し、個人で学習に取り組めるようにしているが、定着できない生徒もいる。 ・書くことに抵抗がある生徒は減ってきているが、内容のレベルの向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年の漢字や文法の復習に取り組ませる。 ・難しい文章をじっくりと読む時間を作り、読み取る力、考える力を身につけさせる。 ・ワークシートを利用して書く力を身に付けさせる。 ・スピーチや聞き取りテスト等を通じて、「話す・聞く力」を身につけさせる。

(2) 社会科

社会科の重点

- 協働的な学びを通して、思考の深まりや表現力の向上を図るような学習活動を行う。
- 身近な事例を取り上げ、社会的事象への関心を高め主体的に学習する態度を育成する。
- 社会的事象に関する基礎・基本が定着できるように、ICTを含め各種教材を活用しながら学習する。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	◇思考判断表現力の底上げを全体的にする必要がある。	◇多面的多角的に考察し、自分の言葉で表現できる力を育てる。 ◇知識の定着を図る必要がある。 ◇与えられた課題について、自分で考えさせる指導を工夫する必要がある。	◇ICT、ワークやプリントなどの教材を使い学ぶ意欲を高める。 ◇あいさつ、準備、発言など授業規律を徹底させる。 ◇一時間の授業の中で協働的な学びの場を多く設定し、お互いを高め合う場面を設定する。
	◇授業に臨む姿勢は全体的に意欲的だが、学習習慣の定着に差がある。		
2年	◇区の学力調査の平均と比べると、全ての項目において目標値・区の平均を上回っている。	◇社会的事象に関する興味・関心を高め、更に知識の定着化を図る。 ◇継続して、生徒自身の活動や考察の時間を多く取り入れ、自ら分かる体験を授業に取り入れる。 ◇基本的な知識を身に付ける場面を設定する。	◇ICT機器を活用して、画像や動画教材などを提示し、生徒の興味・関心を高め、理解を深めていく。 ◇单元ごとに知識の定着を確認するワークや、テスト等を行なう。 ◇学習規律を高め、学習や授業にどのように臨むべきかを常に意識させていく。
	◇授業に臨む姿勢は全体的に前向きであるが、受け身の生徒が多い。また、学習習慣の定着に差がある。		
3年	◇区の学力調査の平均と比べると、全ての項目において目標値・区の平均を大きく上回っている。	◇基礎的知識の定着率が低いため、基本用語などを再確認する取り組みが必要である。 ◇資料を読み取り、活用する力を引き出す工夫が必要。 ◇課題に意欲的に取り組む姿勢を育むために、日常に即した課題の提示を行う。	◇ミニテストの回数を増やし、発問等を繰り返すことで、基礎的な知識の定着を図る。 ◇ワークシートの活用で資料の読み取りや表現する力を向上させる。 ◇日常の社会的課題をグループ討議することで関心を高め、意欲的に取り組む姿勢を育む。

(3) 数学科

数学科の重点

- 1, 習熟度別少人数授業で、個に応じた教材を用い、工夫した授業を行い、基礎・基本の定着を図る。
- 2, 計算や方程式の解法について、答えだけでなく途中の式を丁寧に書かせる指導を徹底し、表現する力を重視する。
- 3, 数量の関係や図形の性質などを考察し、見出した根拠をもって表現したり説明したりする力を育む。
- 4, 日常の事象を数学的にとらえたり、学んだ数学の知識を普段の生活に生かしたりして、数学が役立つことを実感させるよう指導する。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	◇学力調査では、 全体的に目標値よりは上回ってはいるが区内との比較では、全体的に多少下回っている。	①既習事項の 確実な定着 ② 個の生徒の理解の様子を丁寧に分析し、反復練習などの時間を確保する。 ③教材および授業の展開の仕方の工夫を図る。	①単元テストを年間指導計画にもとづき定期的に行う。宿題を定期的に課し、家庭学習の習慣化を図る。 ②小テストからの理解度の分析や少人数授業者との綿密な情報交換や打ち合わせを行い、演習時間を確保するなどして学力の向上を図る。 ③様々な発想や意見を大切にさせる。学力差に対応できるよう、基礎から応用まで幅広い問題を準備する。また、既習事項も随所にもり込み反復練習を行う。
	◇基本的な学習習慣を身に付けさせ、 基礎・基本の定着を重視した授業を行う。		
	◇学力調査では、 思考・判断の部分が基準を下回っている。		
2年	◇基礎基本の定着を重視した授業により、 意欲をもって授業に取り組んでいる生徒が多い。	①既習事項の 確実な定着 ②反復練習の時間の確保 ③教材および授業の展開の仕方の工夫を図る。	① 宿題を定期的に課し、家庭学習の習慣化を図る。 ②定期考査前に補習を行い、演習時間を確保するなど学力の向上に役立てる。 ③様々な発想や意見を大切にさせる。また、既習事項も随所にもり込み反復練習を行う。
	◇学力調査では、どの観点も区の平均を上回る結果となった。		
	◇既習事項が定着していないため、 新しく習う内容が理解できていない。		
3年	◇学力調査では、どの観点も区の平均を上回る結果となった。	①既習事項の 定着 ②反復練習の時間の確保 ③習熟度別少人数授業の 効果的な活用	① 日頃からの家庭学習向けの宿題での家庭学習の習慣化を図る。 小テスト、単元テストを実施する。 ②指導教材を精選し、反復練習の時間を確保する。 ③ 各コース・個の能力に応じた教材の工夫や課題の設定をする。
	◇既習事項が定着していないため、 新しく習う内容が理解できていない。		
	◇既習事項が定着していないため、 新しく習う内容が理解できていない。		

(4) 理科

理科の重点

- ・実験や観察を通して、理科に対する関心や意欲を高めると共に、実験や観察の結果から気がついたことや規則性を見いだす。
- ・基礎知識を用いて、発展的な学習や問題に取り組む。
- ・少人数指導を活かした、きめ細やかな指導を行っていく。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学力調査では、観点別達成率において思考・表現、技能、知識・理解についてはアップしている。 ・全体的には向上が見られるが、区の達成率には及ばない点が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科に関する関心、意欲そのものが低い。 ・知識・理解などの基礎学力が定着していない。 ・理科は覚える教科であるという間違った認識がある。 ・文章読解力や簡単な計算力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を中心に授業を展開すると共に身近な教材を活用して関心・意欲を高める。 ・理科的な原理を身近な現象に結びつけ、なぜそうなるのかを理論的に考えさせるなどを理論的に考えさせるなど、思考力の向上を図る。 ・少人数授業で、生徒の学力に合った授業づくりを目指す。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学力調査では、観点別達成率において思考・表現、知識・理解についてはアップしているが技能についてはダウンしている。 ・全体的には向上が見られるが、関心・意欲の向上が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科に関する関心・意欲を高めていく。 ・知識・理解などの基礎学力の定着を図る。また、発展的な学習を取り入れた授業を計画する。 ・習熟少人数指導のクラス分けを考える。 ・生徒の表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を中心に授業を展開すると共に身近な教材を活用して関心・意欲を高める。 ・身近な現象についての内容を授業で扱い、原理についても実験や観察を通して学び、思考力の向上を図る。 ・少人数授業では引き続き、生徒の学力に合った授業づくりを目指す。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学力調査では、観点別達成率において知識・理解についてはアップしているが思考・表現、技能についてはダウンしている。 ・関心・意欲の向上が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科に関する関心、意欲そのものが低い。 ・基礎学力から応用へと発展させる力が弱い。 ・理科は覚える教科であるという間違った認識がある。 ・文章読解力や簡単な計算力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を中心に授業を展開すると共に身近な教材を活用して関心・意欲を高める。 ・身近な現象についての内容を授業で扱い、原理についても実験や観察を通して学び、思考力の向上を図る。 ・計算演習などで、反復学習を多めに取り入れる。

(5) 音楽科

音楽科の重点

- ・ 表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにする。
- ・ 様々な表現を通じて音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>◇概ね落ち着いて意欲的に取り組むことができる。</p> <p>◇歌唱活動において声量は比較的良く出るようになり、意欲も高まってきた。良い手本、見本を提示しより質の高い表現力を身につけさせる必要がある。</p> <p>◇読譜力が低い。</p>	<p>◇楽典理論の理解、読譜力の強化が必要である。</p> <p>◇歌唱活動においての意欲を技術の向上につなげていく必要がある。</p> <p>◇変声や読譜に対するコンプレックスを排除し、音楽から感じられる喜びや楽しみを味わわせる必要がある。</p>	<p>◇学習シートを工夫し定期的に取り組ませる。</p> <p>◇1時間の授業の中で相互評価の場面を設けることで互いに聴き合い、全体の演奏技術向上を図る。</p>
	<p>◇意欲的で落ち着いた学習活動ができています。歌唱活動において声量も良く出ている。鑑賞も落ち着いて聴くことができる。</p>	<p>◇意欲を集団で表現する力強さにつなげていくために発声練習方法の工夫が必要である。</p>	<p>◇各課題に対して達成感を得られるよう『個人達成カード』を利用して何を目的として練習するのかを明確にし、演奏技術の向上を図る。</p> <p>◇見本となる生徒の活用を図る。</p>
	<p>◇落ち着いた雰囲気で行う活動できる。意欲的に取り組む生徒とやや消極的な生徒と二分される。</p> <p>◇鑑賞については豊かな音楽表現を味わいながら聴き取ることができる。</p> <p>◇音楽表現の幅を広げるために、多様な音楽に触れる必要がある。</p>	<p>◇さらに興味関心を引き付ける指導を心がけ、意欲的、主体的に活動させていく必要がある。</p> <p>表現することの喜びを体感させられるようアプローチの仕方を工夫する。ミニレクソンをしてできたところを褒め、意欲につなげる。</p> <p>◇幅広い音楽表現を身につけさせるために、多岐に渡り、多様な音楽作品の鑑賞を取り入れていく必要がある。</p>	<p>◇各課題に対して達成感を得られるよう『個人達成カード』を利用して何を目的として練習するのかを明確にし、演奏技術の向上を図る。</p> <p>◇グループごとに詞の表現や練習の方法を話し合わせ積極的に関わりをもたせていく。演奏について、批評したり、工夫したりしたことを伝え合い、表現に生かすようにする。</p> <p>◇鑑賞教材は幅広いジャンルから選択し、生徒の興味関心へつなげる。</p>
2年	<p>◇概ね落ち着いて意欲的に取り組むことができる。</p> <p>◇歌唱活動において声量は比較的良く出るようになり、意欲も高まってきた。良い手本、見本を提示しより質の高い表現力を身につけさせる必要がある。</p> <p>◇読譜力が低い。</p>	<p>◇楽典理論の理解、読譜力の強化が必要である。</p> <p>◇歌唱活動においての意欲を技術の向上につなげていく必要がある。</p> <p>◇変声や読譜に対するコンプレックスを排除し、音楽から感じられる喜びや楽しみを味わわせる必要がある。</p>	<p>◇学習シートを工夫し定期的に取り組ませる。</p> <p>◇1時間の授業の中で相互評価の場面を設けることで互いに聴き合い、全体の演奏技術向上を図る。</p>
	<p>◇意欲的で落ち着いた学習活動ができています。歌唱活動において声量も良く出ている。鑑賞も落ち着いて聴くことができる。</p>	<p>◇意欲を集団で表現する力強さにつなげていくために発声練習方法の工夫が必要である。</p>	<p>◇各課題に対して達成感を得られるよう『個人達成カード』を利用して何を目的として練習するのかを明確にし、演奏技術の向上を図る。</p> <p>◇見本となる生徒の活用を図る。</p>
	<p>◇落ち着いた雰囲気で行う活動できる。意欲的に取り組む生徒とやや消極的な生徒と二分される。</p> <p>◇鑑賞については豊かな音楽表現を味わいながら聴き取ることができる。</p> <p>◇音楽表現の幅を広げるために、多様な音楽に触れる必要がある。</p>	<p>◇さらに興味関心を引き付ける指導を心がけ、意欲的、主体的に活動させていく必要がある。</p> <p>表現することの喜びを体感させられるようアプローチの仕方を工夫する。ミニレクソンをしてできたところを褒め、意欲につなげる。</p> <p>◇幅広い音楽表現を身につけさせるために、多岐に渡り、多様な音楽作品の鑑賞を取り入れていく必要がある。</p>	<p>◇各課題に対して達成感を得られるよう『個人達成カード』を利用して何を目的として練習するのかを明確にし、演奏技術の向上を図る。</p> <p>◇グループごとに詞の表現や練習の方法を話し合わせ積極的に関わりをもたせていく。演奏について、批評したり、工夫したりしたことを伝え合い、表現に生かすようにする。</p> <p>◇鑑賞教材は幅広いジャンルから選択し、生徒の興味関心へつなげる。</p>
3年	<p>◇概ね落ち着いて意欲的に取り組むことができる。</p> <p>◇歌唱活動において声量は比較的良く出るようになり、意欲も高まってきた。良い手本、見本を提示しより質の高い表現力を身につけさせる必要がある。</p> <p>◇読譜力が低い。</p>	<p>◇楽典理論の理解、読譜力の強化が必要である。</p> <p>◇歌唱活動においての意欲を技術の向上につなげていく必要がある。</p> <p>◇変声や読譜に対するコンプレックスを排除し、音楽から感じられる喜びや楽しみを味わわせる必要がある。</p>	<p>◇学習シートを工夫し定期的に取り組ませる。</p> <p>◇1時間の授業の中で相互評価の場面を設けることで互いに聴き合い、全体の演奏技術向上を図る。</p>
	<p>◇意欲的で落ち着いた学習活動ができています。歌唱活動において声量も良く出ている。鑑賞も落ち着いて聴くことができる。</p>	<p>◇意欲を集団で表現する力強さにつなげていくために発声練習方法の工夫が必要である。</p>	<p>◇各課題に対して達成感を得られるよう『個人達成カード』を利用して何を目的として練習するのかを明確にし、演奏技術の向上を図る。</p> <p>◇見本となる生徒の活用を図る。</p>
	<p>◇落ち着いた雰囲気で行う活動できる。意欲的に取り組む生徒とやや消極的な生徒と二分される。</p> <p>◇鑑賞については豊かな音楽表現を味わいながら聴き取ることができる。</p> <p>◇音楽表現の幅を広げるために、多様な音楽に触れる必要がある。</p>	<p>◇さらに興味関心を引き付ける指導を心がけ、意欲的、主体的に活動させていく必要がある。</p> <p>表現することの喜びを体感させられるようアプローチの仕方を工夫する。ミニレクソンをしてできたところを褒め、意欲につなげる。</p> <p>◇幅広い音楽表現を身につけさせるために、多岐に渡り、多様な音楽作品の鑑賞を取り入れていく必要がある。</p>	<p>◇各課題に対して達成感を得られるよう『個人達成カード』を利用して何を目的として練習するのかを明確にし、演奏技術の向上を図る。</p> <p>◇グループごとに詞の表現や練習の方法を話し合わせ積極的に関わりをもたせていく。演奏について、批評したり、工夫したりしたことを伝え合い、表現に生かすようにする。</p> <p>◇鑑賞教材は幅広いジャンルから選択し、生徒の興味関心へつなげる。</p>

(6) 美術科

美術科の重点

- ・ 絵画、彫刻、デザイン、工芸等の基礎知識を習得する。
- ・ 制作する楽しさ、鑑賞する楽しさを身につけ、日常で美術を身近に感じる心を養う。
- ・ 個々の作品への具体的な対応策を研究し、個性を伸ばす指導を充実させる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	表現活動に対して、関心はあるが、地道な取り組みや発想や構想の手段や表現の技術的方法の理解が十分とは言えない。	一つの目標を粘り強く取り組まず、達成感や美的体験を十分に味わっていない生徒が多い。 発想が乏しく技術面に課題が多く、稚拙な発想や集中力に欠ける生徒もおり、途中で挫折したり丁寧に仕上げたりすることができない生徒がいる。	各々の目標か課題をはっきりさせ目標を達成できるよう指導する。各題材の導入時に見せる参考作品はできるだけ多様なものを提示し、興味関心を抱かせる。 個別的な指導に力を入れ、自らの創造性や興味関心を引き出せるよう助言していく。
2年	表現活動に対して、一定の関心・意欲を持って授業に取り組んでいる。 発想や構想の能力に個人差があり、進度に差が生まれやすい傾向にある。	全体説明で理解出来ず、個別指導が必要な生徒が多い。 技術面で自信が持てず制作を楽しめない生徒も見受けられる。	各授業時間での課題をはっきり認識させ、生徒の興味を引き出せるよう多様な資料を用意する。 個別指導では個々に沿った表現でアドバイスをしようころがける。
3年	表現活動に対して関心・意欲を持って授業に取り組んでいる。 意欲的で発想・構想に独創性のある生徒が見受けられる一方で、自己表現に苦手意識を持つ者もいる。	発想段階で独創性を出すのがむずかしい生徒が多い。 既存の手本などに頼りすぎな傾向があるので、個性を表現できるような働きかけが必要である。	ひとりひとりが個性を大事にするように声掛けをする。 課題の目的を明確化し、計画的に作業をすすめられるよう働きかける。 個別指導で個々の良さを出せるように表現を選び指導する。

(7) 保健体育科

保健体育科の重点

- ◇運動の特性を知り、集団で安全に楽しく身体を動かすことができるようにする。
- ◇集団行動やラジオ体操・七中ストレッチなどを年度当初にしっかりと習得できるようにし、補強運動を含めて年間を通して実施する。
- ◇単元や種目ごとに記録を測定し、自分自身の現在の能力を把握することで、1時間の中で「できた」「わかった」と感じる場面が多くあるような授業にする。
- ◇3年間を見通しての目標をたて、その目標に到達できるように、反復運動・フィードバック学習を行っている。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心をもち、集団行動や運動に取り組む姿勢を身につける。 ・話を聞けない生徒もいるので、安全面も含め、どのような授業が良いかを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における既習内容の定着に差がある。 ・運動に対する興味関心を技能向上につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業においては毎時間「本時のねらい」と「目標とする値」を提示して取り組む過程を明確にしていく。 ・試合を進めるために必要な技能や知識を身に付けることの意義を感じさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・元気に取り組むことはできる。自己の知識を用いて課題解決を図ることを目標としたい。 ・技能だけでなく、技能の名称や審判法などについても知識が乏しい。 ・運動経験の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験のない生徒が練習に消極的になってしまふ。 ・授業の規律は守られているが、生徒が考えて練習できるように授業を工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の苦手な生徒も活動に積極的になれるような教材の工夫をしていく。 ・友達や教員からの声掛けや、他者がなぜうまくできるのかを考え、それを踏まえて練習できるように時間をとる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対する積極性はあまり高くないが、指示されたことを楽しんでやろうとする生徒は増えてきた。 ・試合を楽しみ、運動に親しむ生活を身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中での種目の運営をしていけるように、技能のみならず、審判法はルール・安全管理などについても知識を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図解体育を用いて用語や技能の名称、ルールなどについて知識を深めていく。 ・グループごとにミニゲームの時間を多くとり、全員が審判も体験できるようにする。

(8) 技術・家庭科

技術・家庭科の重点

◇4つの内容を複合的に組み合わせることによって、それぞれで学ばせたい基礎的・基本的な内容を体験的・反復的に学習させることにより、確実な定着を図る。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>◇話を聞くための集中力が持続しない。</p> <p>・話が聞けないので、課題をつかみきれない</p>	<p>・一斉指導で生徒に指示を伝える。</p> <p>・目的意識を持つことができる。</p> <p>・興味、関心を持つことができる。</p>	<p>・前を向き、目と耳と心で話を聞くように習慣づける</p> <p>・分かりやすく提示し、理解を増すことで目的意識を持たせる</p> <p>・題材や一斉指導で興味、関心を自ら持てるようにしていく。</p>
2年	<p>◇ものづくりに対して意欲的に取り組んでいる生徒が多い。</p>	<p>・問題発見する意欲や、技術を適切に評価し、調整する能力の経験が少ない。</p> <p>・製作に必要な技能の習得レベルに個人差が大きく、「布を用いた小物づくり」の題材において、進度に差ができてしまう。</p> <p>・意欲に対して技術が追いついていない。</p>	<p>・問題発見を具現化し、調整場面を提示し経験値を高める。</p> <p>・説明だけでは理解できない生徒に対しては、全体説明に加えて、段階見本を見せながら指導をしていく。</p> <p>・机間巡回で個別に質問できる機会を増やしていく。</p>
3年	<p>◇ものづくりの製作に製作進度の差が大きい。</p> <p>◇生徒の多くは、製作経験が乏しい。</p>	<p>・製作に対して作業のねらいが明確ではないことが多い。</p> <p>・問題発見する意欲や、技術を適切に評価し活用しようとする経験値が少ない。</p>	<p>・製作マニュアルを提示し、作業進度を把握し、適切な解決方法を選択し、成功体験を味わわせることで意欲を高めさせる。</p> <p>・授業の最後に作品品評会を行い、いいところや問題点、改善方法などを伝える。</p>

(9) 英語科

<p>英語科</p> <p>○ 4 技能をバランスよく取り入れた授業の実践</p> <p>○ 第 1 ～ 3 学年における少人数指導の実施と充実</p> <p>○ 学力向上アシスタントや ALT の効果的な活用</p>

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>・小学校英語活動において、会話表現や生活関連の基本語彙を聞く・話す、等の音声面は習得している。中学校の授業では読む・書く等の文法授業に移行するので、生徒によっては、小学校の英語活動とのギャップに戸惑いを感じ、英語に興味を失う生徒が見られる。そのため、中学校1学年においては英語学習と英語授業の橋渡しをスムーズに行うため、授業に工夫が必要となる。</p>	<p>・小学校とのスムーズな橋渡しのために、小学校英語活動で何が行われているのか把握する。</p> <p>・音と文字を一致させる活動を行う。</p> <p>・毎時間の「指導のねらい」をはっきりさせ、基本的な事項の定着を図ると共に、語彙力をさらに高める。</p> <p>・「自己表現力」を高め、発話の抵抗感をなくす。</p>	<p>・ Warm-up では既習の文法事項を用いた英語表現活動を取り入れ、生徒に安心感を持たせる。</p> <p>・ 定期的リスニングテストを行う、英語の歌を聞く等の活動通し英語の音に慣れさせる。</p> <p>・ 定期的スピーキングテストを行い、語彙力を高める。</p> <p>・ 後期からは Dictation テストを行い、音と文字の一致、基本的な文法表現の定着を図る。</p> <p>・ ALT とのティームティーチングを活用し、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>
2年	<p>中野区学力調査では区の平均値をコミュニケーションへの関心・意欲・態度と理解の能力で上回り、表現の能力と文化についての知識・理解で下回っている。</p> <p>理解したことをまとめ表現する力の育成、文法的知識の定着と語彙力の育成が今後の課題である。</p>	<p>教科書の本文を音読・暗唱することによって理解力を高め、自己表現をする機会を設け、実践させたい。</p> <p>ALT とのコミュニケーション活動を重視し、単語練習プリントやスピーキングコンテスト等で語彙力を養成したい。</p>	<p>・ 表現力を育成するために、教科書の本文理解を重視し、音読と基本対話の暗記を行う。</p> <p>・ ALT とのスピーキングテストの実施、単語の練習を行う。</p> <p>・ 書く機会を増やす。</p> <p>・ 授業はできるだけ英語を使い進める。</p> <p>・ ペア練習などを通し、英語を使う楽しさを感じさせる。</p>
3年	<p>中野区学力調査では多項目において平均値を上回っており、英語の学力は育まれている。</p> <p>一方で、基礎基本が定着していない生徒も多い。よく使用される単語や文法事項が定着するよう授業の指導法や家庭での課題の取り組み方を考えていく必要がある。</p>	<p>基本的な単語・文法事項を習得できていない現状を改善すべく、定期的に単語・単元テストや課題を課すことで語彙力を向上させる。</p> <p>表現力を身につけさせ、積極的に ALT や教師に質問ができるよう、発表をする時間が多い授業展開を考える。□</p>	<p>定期的にスペコンや単語・単元テスト等を行い、自分で振り返ると共に、自信を付けさせて自ら英語の課題に取り組める意識を高める。</p> <p>授業内で課題に取り組む際は、自分で考えた後、生徒同士で話し合う中で意見を述べる機会を作る。その後で全体で発表させるなどして表現力を高める。最後に復習用プリントを使用し、理解の確認をする。</p>